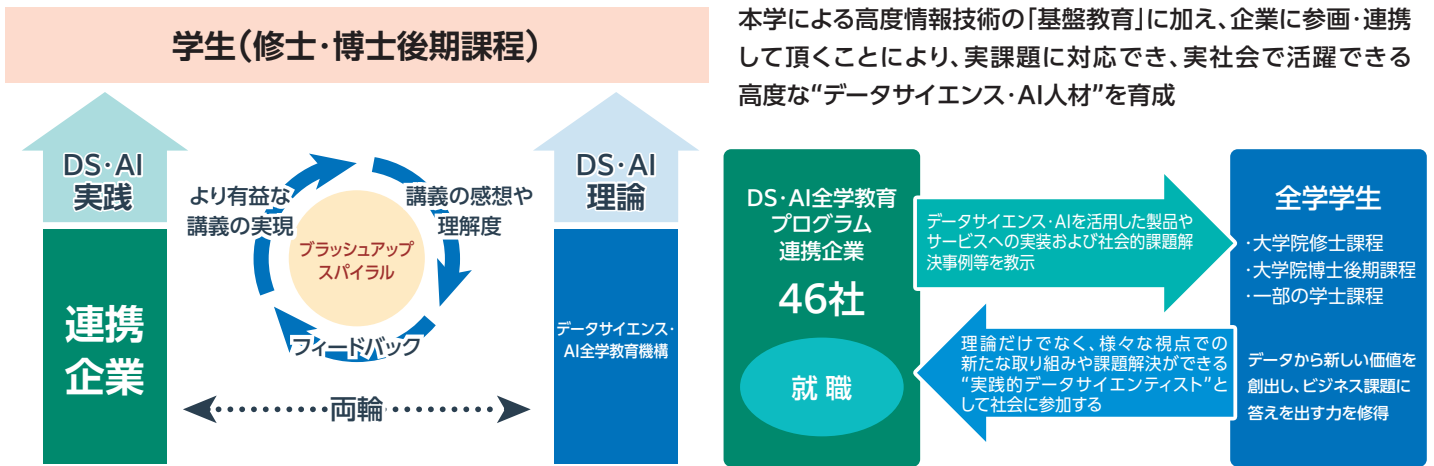


6. 企業連携

本機構では、本学による高度情報技術の「基盤教育」に加え、企業に参画・連携して頂くことにより、実課題に対応でき、実社会で活躍できる高度な「データサイエンス・AI人材」を育成しています。大学と企業の共同教育により、講義「応用実践データサイエンス・AI」、学生と企業の意見交換会「DS&AIフォーラム」、そして学生が企業の現場で実践する「DS・AIインターンシップ」という一連の流れが整備されています。



6.1. 企業の研究者や技術者による講義

本機構は、企業との共同教育を行っており、46社の企業が、エキスパートレベルの応用実践系科目において、講義を担当しています。これらの講義は、基盤系科目の理論的な内容とは異なり、産業界の各分野におけるDS・AI技術の考え方や活用、また、企業におけるDS・AIの実装など、応用・実践的な知識や技術を学ぶプログラムです。その領域も金融系、素材系、製薬系、IT系、建築系、電子機器系、重工業系、自動車系など、幅広い分野に渡っています。いずれの講義も、第一線で活躍している研究者・技術者たちが、世の中の激しい変化を生き抜く視点で講義を担当しています。コロナ禍で、オンラインでの講義を続けていましたが、2024年度からは対面の講義が中心となり、2025年度はグループワーク形式や簡単なプログラミングなども取り入れたハンズオン・インタラクティブな授業も増えてきています。

講義担当者からのコメント

- ・なるべく身近な事柄や、若年層から関心レベルの高いトレンド等と関連付けて説明するように心がけた。
- ・業界の特徴や課題から入ることで、全体像が理解でき、興味を持ってもらえるように留意した。
- ・なるべく具体的な事例を出し、ものづくりとデジタル技術の関連について、イメージがわかりやすいようにしている。
- ・課題では、単に知識を問うものではなく、講義内容を踏まえて演繹的な思考力を問う内容を設定している。
- ・簡単な課題を投げかけて学生の考えについて議論するような機会も設けたい。

受講生からのコメント

- ・実社会でどのようにデータサイエンス・AIが応用されているかがわかり、データサイエンス・AIを利用する際の考え方が身についた。
- ・様々なビジネス分野で実用化に用いられていることを知り、自発的にデータサイエンス・AIを勉強するモチベーションを高めることができた。
- ・コーディングは勉強しないので実務能力は向上しなかったが、データサイエンス・AIの使い方が、様々な企業から学べたので、新しい視点を複数得られた。

6.2. DS&AIフォーラム

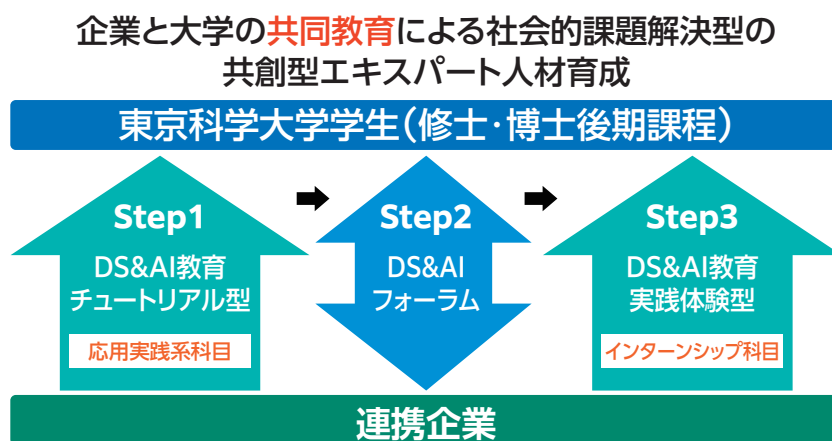
受講生たちの将来のキャリア設計に役立ててもらうことを目的として、年に2回、受講生とDS・AI全学教育プログラム連携企業が直接交流できる意見交換会「DS&AIフォーラム」を開催しています。2025年度は、5月28日と11月28日に対面で行い、計55社の企業が参加しました。まずは各企業から自社の紹介をして頂き、次に個社ブースに分かれて、各企業と受講生のセッションを行い、対話型の交流が生まれました。受講者からは「企業の現場で実際に使われるDS・AIを知る良い機会だった」「学内に広く告知し、より多くの学生に参加できるようにすると良いと思う」などの声が聞かれました。

また、「DS&AIフォーラム」では、インターンシップ科目に参加する企業から実習コースの案内も行いました。



6.3. 大学院向け「DS・AIインターンシップ」

本機構は、企業からの教育プログラム提供（チュートリアル型の講義）に加え、2024年度からは新たに学生が講義で学んだことを各企業の研究開発の現場へ行って実践することができる単位付与型のDS・AIインターンシップ科目を開設しました。



6.4. 企業との情報交換会

企業との協力体制を常に改善し続けることを目的として、連携企業との情報交換の場を設けています。2026年2月27日に、大学と企業、企業同士が対面で意見交換のできる企業情報交換会を行い、今年度の講義を振り返り、学生の関心を高める工夫や理解を深める方法など、参加企業のノウハウを共有しました。また、本機構の市川類特任教授より、「何故、日本はDX・AIが進まないのか～比較分析を踏まえた今後の企業戦略の方向～」のミニ講演会を実施しました。最後に2025年度より開設された社会人共創教育プログラム（後述）について、企業同士の意見交換会を行いました。



6.5. 社会人共創教育プログラム

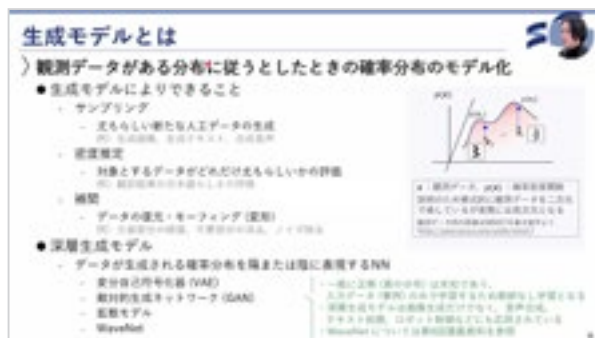
本機構では、データサイエンス・AI分野における人材育成と、産学連携による新たな価値創出を目的として会員企業向けに「社会人共創教育プログラム」を2025年11月に開設しました。

近年、企業においてはデータサイエンス・AIを体系的に学ぶ機会の不足に加え、実社会の課題に即した実践的な活用力の育成が求められています。また、学生とのより深い交流や、他企業との意見交換を通じた新たな視点の獲得に対する期待も高まっています。

本プログラムでは、本機構が本学の学生向けに開設する授業を「DS・AIオンデマンド講座」として受講することができ、基礎力の修得に加えて、さらなる学びの深化を図ることができます。また、学生・企業・大学教員が一体となった「共創グループワーク」への参加により、企業が持ち込むリアルな課題をテーマに、参加メンバーが議論を重ね、データサイエンス・AIを活用した解決策の検討や簡単なモックアップ作成までのプロセスを実践的に体験することもできます。

6.5.1. DS・AIオンデマンド講座

データサイエンス・AI全学教育プログラムで開講される授業をオンデマンド形式で受講できます。データサイエンスやAIの知識を幅広く体系的に修得することができます。各授業科目は7コマ(1コマ=100分)で構成され、授業内容についてMS Formsを介して質問することができます。2025年度は「基礎データサイエンス・AI」(学士課程1年次向け)、「応用基礎データサイエンス・AI第一」(学士課程2年次向け)、「応用基礎データサイエンス・AI第二」(学士課程2年次向け)の3つの授業科目について提供を始めました。



「応用基礎データサイエンス・AI第二」授業動画



オンデマンド講座ウェブサイト(スマホ対応)

6.5.2. 共創グループワーク

共創グループワークでは、学生の「未来からの新しい視点」、企業の「リアル社会からの視点」、教員の「アカデミアからの専門的視点」が交差することで、従来の枠を超えた発想や知見が創出されます。さらに、密度の高い議論や協働を通じて、継続的な連携や共同研究へとつながる関係構築も期待されます。

この共創グループワークは2025年11月と2026年2月に開催されましたが、実際に参加した学生たちからは、「挑戦したことのない課題に取り組む機会が多く、学びが大きく楽しかった」「AIを社会課題に適用していく過程を体験できた」「企業課題に取り組む中で、難しさワクワクの両方を感じた」「企業の方や教員と共に取り組む経験は非常に新鮮で面白かった」といった声が寄せられました。

また参加企業の方々からも、「幅広い年次の学生や教員と議論しながらチームで進められたことが有意義だった」「学生の課題解決能力や積極性に刺激を受けた」「正解のない課題に学生や先生方と取り組めたことにとっても価値を感じた」との評価が得られています。



グループワークの様子



社会人共創教育プログラム 日刊工業新聞記事 (2025年11月14日)